

痛み

道玄坂を登りきった路傍に  
御影石で造られた大小二つのピラミッドがある  
一辺が十五センチのものと十センチのもの 黒く光つてゐる  
僕はそれぞれの頂点に掌を押しつけることにしてゐる  
かすかな痛みを感じる  
行事のやうにしてそれから坂を下る

東横線の始発ホーム 何人かの人の間に立つて電車を待つてゐた  
「ここは並んで乗るんですよ」  
行列の中央のあたりがすいてゐたので  
二三步するすると僕が移動したことをとがめてゐるのだ  
白髪まじりの中年の男の澄んだ声であつた  
「ごめんなさい」  
僕は低く声を荒げた  
さらに  
「御立派」  
とつけくはへた  
この場合の痛みはピラミッドの痛みとは性質がちがふ